

米国確定拠出年金の成長過程と諸問題

河 田 剛 CMA

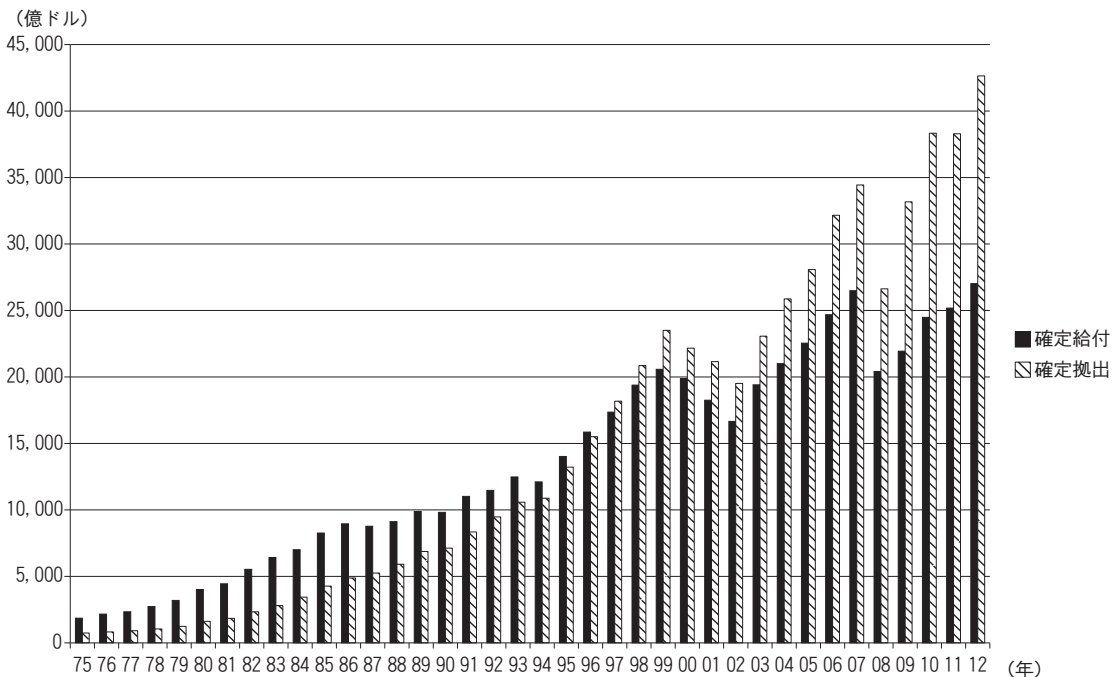
(証券アナリストジャーナル編集委員会委員)

米国企業年金の柱に成長した確定拠出年金

1970年代まで、米国企業年金の主流は確定給付年金であった。75年末の時点で確定給付年金の残高が1,860億ドルであったのに対し、確定拠出年金の残高は740億ドルにとどまっていた。しかし、80年代以降、確定拠出型年金が急速に普及した。97年末には確定給付年金の残高1兆

7,538億ドルに対して、確定拠出年金は1兆8,182億ドルと逆転した(図表1)。2012年末には確定給付年金の残高が2兆7,019億ドルなのに対し、確定拠出年金は4兆2,444億ドルと大きく上回っている。また、加入者数についても、2012年末時点で確定給付年金の3,981万人に対し、確定拠出年金は9,078万人(図表2)となっている。

図表1 確定給付・確定拠出年金の資産残高



(出所) Department of Labor, Private Pension Plan Bulletin